

(団体用) 協働事業評価・報告書

事業名	「食」と「地域」をつなぎ神奈川から貧困をなくすための K-Model 構築事業
団体名	特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川
県協働部署名	福祉子どもみらい局子どもみらい部子ども家庭課 福祉子どもみらい局子どもみらい部次世代育成課 福祉子どもみらい局福祉部生活援護課 県土整備局建築住宅部住宅計画課 環境農政局環境部資源循環推進課 くらし安全防災局くらし安全部消費生活課
事業期間	2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

1 個別事業ごとの進捗状況

事業 1	多機関連携による K-Model 推進事業
(1) 目標	生活困窮者等支援と食品ロスを改善するため「食」と「地域」をつなげるネットワークをつくり、持続可能な食品循環の仕組みを構築する。
(2) 実績 ※事業の実施によって生じた結果を、数値等により箇条書きで記入してください。 ※この欄に入りきらない場合は、別紙も可。	<p>事業 1 多機関連携による K-Model 推進事業 (K-Model 広報、ネットワークづくり)</p> <p>【ネットワークづくり】</p> <p>1. ビーバーリンク提供・協力団体</p> <p>①生活協同組合パルシステム神奈川…食品＝青果、常温品等、設備＝冷凍・冷蔵・常温保管倉庫 (県内 13 か所)、人員、配送車両、リサイクル品の提供</p> <p>②株式会社野口食品…学校給食等の食材、調味料等</p> <p>③公益社団法人フードバンクかながわ…常温品食品全般</p> <p>④ヴェスティ・フーズ・ジャパン株式会社…冷凍食品、菓子等</p> <p>⑤株式会社横浜岡田屋…防災備蓄品等</p> <p>⑥株式会社ニッコー…冷凍食品等</p> <p>⑦有限会社一蘭…加熱済冷凍肉</p> <p>⑧湘南信用金庫…防災備蓄品</p> <p>⑨相鉄ホールディングス株式会社…防災備蓄品</p> <p>⑩神奈川県くらし安全防災局防災部災害対策課…防災備蓄品</p> <p>⑪キリンビール株式会社…防災備蓄品</p> <p>⑫株式会社ホテルニューグランド…アメニティ等</p> <p>⑬京浜急行電鉄株式会社…食品、日用雑貨等</p> <p>⑭株式会社駿河屋本舗…冷凍食品</p> <p>⑮株式会社湘南オフィスサービス…地域の課題と連携、備蓄品の情報提供</p> <p>⑯武松商事株式会社…企画運営、企業の紹介、協働企画開催</p> <p>⑰株式会社加瀬倉庫…困窮者支援での防災備蓄品活用、倉庫の協力</p> <p>⑱横浜信用金庫…団体や企業の課題と連携等</p> <p>⑲三井アウトレットパーク 横浜ベイサイド…会場提供、運営協力等</p> <p>⑳ J A 神奈川県中央会…企業の紹介、物流協力等</p> <p>㉑石井食品株式会社…冷蔵惣菜品</p> <p>㉒F-LINE…防災備蓄品、物流協力</p>

	<p>㉓ インバースネット株式会社…パソコンプロジェクト用パソコンの提供</p> <p>㉔ 有限会社宮城屋…おからプロジェクト用のおからの提供</p>
<p>(3) 実績・成果に対する評価 ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 武松商事株式会社協働、三井アウトレットパーク横浜シーサイドの協力「もったいない food&日用品ドライブ」企画4回実施。協働部署で広報協力。回収品の食品は子ども食堂へ、日用品はリサイクル販売され、売り上げの一部を寄付頂いた。 SDGs 推進として、協働部署を通じて広報していただき、かながわSDGs パートナー連携、企業からの相談など、協働部署と間接的に課題でつながることができた。 消費生活課より、令和3年度消費者月間の取組として、5、10月、県のHP及びFacebook ページに掲載された。 生活援護課へ、生活保護世帯が食品の寄付を受け取る際に、生活保護費に影響を及ぼすことがあるのか、基準について確認することが出来た。 横浜信用金庫本店紹介の老舗豆腐店から廃棄されていたおからを活用するプランを提示、各子ども食堂に配布し、状況にあわせて引き取りを実施。 武松商事へリユースパソコンについて相談、取引先のパソコンリユース会社インバースネット株式会社を紹介いただき、子どもの居場所運営3団体と誓約書を取り交わし、インバースネット株式会社と覚書取り交わし後、パソコン貸与事業を実施。 綾瀬市より、継続して食品支援の要望があり、地域性を見て協力を得られる団体と連携し支援を実施。継続的にフードリンクあやせが実施できるよう連携していく。 フードバンクかながわとの連携で、冷蔵品の引取り対応等、相互で協力して未利用食品を活用する流れが出来てきた。 住宅計画課主催の空き家対策行政実務者会議において茅ヶ崎市都市政策課が実施している空き家活用マッチング制度と連携でき、2年目として地域の活動づくりも構築できた。
(4) 進捗状況	<p>ア) この事業の進捗は何%ぐらいですか。(%) ※1年間で目標が達成できた場合に「100%」になることを基準に判断してください。 100%</p>
	<p>イ) 上記ア)のように判断した理由を記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多機関連携による K-Model 推進事業として、連携出来た企業は食品業界に限らず、物流、保管、広報等と幅広く、協力してもらえる団体・企業とつながりが出来た。
	<p>ウ) この事業の課題と対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業が協力や参画することに、魅力を感じるような事業活動の継続が課題、そのためには、利用団体の活動や利用状況の定期的報告が必要。
事業2	地域FB等支援事業(子ども食堂、学習会等、空き家活用)
(1) 目標	企業が安心して地域フードバンクや子ども食堂に食品を提供できるように周知を図るとともに、地域フードバンク等の運営に必要な情報提供や中間支援を行う。

(2)実績

※事業の実施によって生じた結果を、数値等により箇条書きで記入してください。

※この欄に入りきらない場合は、別紙も可。

事業1 地域FB等支援事業

【子ども食堂、学習会、空き家活用】

1. ビーバーリンク登録団体 2022年3月現在

- ① ビーバーリンク@武蔵新城=場所：メサ・グランデ（コミュニティカフェ）4団体
・めさみーる+（プラス）、てらこみーる、若者カフェここにわ、がんばるママ交流会
- ② ビーバーリンク@桜木町=場所：さくらリビング（青少年支援センター）3団体
・さくらリビング（若者サポート活動、学習支援活動、居場所支援活動）
- ③ ビーバーリンク@鶴見=場所：パルシステム神奈川鶴見センター 7団体
・駒岡丘の上こども食堂、特定非営利活動法人なまむぎこども食堂、ひとり親支援、子ども食堂すまいる、つるみ元気塾、OMOSHIRO、かえでこども食堂
- ④ ビーバーリンク@ふらっと茅ヶ崎=場所：ふらっとパル茅ヶ崎 9団体
・ふらっと若者カフェ、茅ヶ崎市民活動サポートセンター、地域のお茶の間研究所さろんどて、REALこども支援、湘南つばさの家、茅ヶ崎高校定時制、寒川高校、藤沢市立白浜養護学校、フードバンク厚木
- ⑤ ビーバーリンク@港北=場所：パルシステム神奈川横浜北センター 7団体
・生活介護事業所支えあいの会、MGMプロジェクト、さくらホームレストラン、満福うえのまち子ども食堂、大倉山ミエル、海街、フードバンク浜っ子南
- ⑥ ビーバーリンク@金沢=場所：パルシステム神奈川横浜南センター 7団体
・金沢こども食堂すくすく、よこすかなかなかや、となりのれすとらん、もりのお茶の間、神奈川フードバンク・プラス、ポートファミリアくすの樹、よこすかひとり親サポーターズひまわり
- ⑦ ビーバーリンク@茅ヶ崎南湖=場所：みんなの居場所びすた〜り 4団体
・サンチャイ・ネパールねばるば、みんなの居場所びすた〜り、若者カフェ、みなごは食堂、ひとり親支援、
- ⑧ ビーバーリンク@戸塚=場所：パルシステム神奈川横浜中センター 4団体
・NPO法人おもいやりカンパニー、ほっこりこども食堂、フードリンクあやせ、出張ビーバーリンク横浜市立大学パントリー
- ⑨ ビーバーリンク@木月=場所：フードバンクかながわ配送センター 2団体
・木月こどもキッチン、まきまきキッチン
- ⑩ ビーバーリンク@平塚=場所：パルシステム神奈川平塚センター 7団体
・子育ての輪Lei、NPO法人報徳食品支援センター、フードバンク湘南、びすたーり、幸町こども食堂おいしいね、地域のお茶の間研究所さろんどて、南湖こども食堂波
- ⑪ ビーバーリンク@相模=場所：パルシステム神奈川相模センター 1団体
・フードコミュニティ
- ⑫ ビーバーリンク@睦町=場所：パルシステム神奈川

	<p>鶴見センター 6 団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たんぼぼクラブ、わいわい食堂、てのひら食堂、みんなの海山交流学校、睦母子生活支援施設、ココロにたねまき <p>⑬ ビーバーリンク@大和（2021 年度新設）＝場所：パルシステム神奈川大和センター 3 団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことりのお家、長後こども食堂、フードリンクあやせ <p>⑭ ビーバーリンク@麻生（2021 年度新設）＝場所：パルシステム神奈川麻生センター 4 団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリースペースたまりば、コミュニティスペースえんくる、川崎若者就労・生活自立センターブリュッケ、フリースペースえん <p>2. 2021 年度取扱い実績（2022 年 2 月時点）</p> <p>① 冷蔵品 青果：9,000kg（定期毎月 800Kg、不定期）おから、豆腐類、ハンバーグ：590 kg（1,308 個）</p> <p>② 冷凍品 冷凍肉：1,712kg（3,425 個）冷凍総菜：4,787 kg（8,399 個）</p> <p>③ 常温品 防災備蓄品等：60,777 kg（121,554 点）</p> <p>④ 生活用品 こども衣料、女性衣料、学用品、ランドセル等：約 600 点、マスク、おむつ等消耗品：250 点</p> <p>3. 新たなフードバンクの立上げ・運営支援</p> <p>① フードバンク浜っ子南、ココロにたねまきの立上げ、運営、食品提供の支援を実施。</p> <p>② フードバンクかながわとの連携で、冷蔵品の引取り対応等、相互で協力して未利用食品を活用する流れが出来てきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、宮城県のフードバンクより玄米 10 トンを提供頂くこととなり、物流、保管、配布等、それぞれに協力頂くことが出来た。 <p>4. 空き家活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎市都市政策課で実施している空き家活用マッチング制度では、開所 2 年目として地域の活動づくり、連携が構築できた。地域とのつながりができ、活動も広がったが、コロナが大きく影響し、開所が予定よりも遅れたこと、家賃見合い分の事業活動がすすめられなかったことなどが要因となり、一旦休止することとなった。別物件で活動がすすめられるように支援は継続する。
<p>(3) 実績・成果に対する評価 ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域で新たなフードバンクの立ち上がり、それぞれの活動への支援や協力を実施。県内全域において子ども食堂やフードバンク団体との連携がすすみ、食と地域をつなぐネットワークが、多方面へと広がったことが成果である。このことにより、子どもやひとり親支援、居場所づくり、空き家の活用がすすみ、支援活動が広がることで、食品の有効活用の取り組みがすすんだことが成果である。 ・空き家活用においては、モデルケースとして市町村へ報告することができ、コーディネートを実践することで空き家活用を推進していく土台が構築できた。
<p>(4) 進捗状況</p>	<p>ア) この事業の進捗は何%ぐらいですか。(%) ※1 年間で目標が達成できた場合に「100%」になることを基準に判断してください。 100%</p> <p>ロ) 上記ア) のように判断した理由を記入してください。 ・ビーバーリンク拠点が昨年度 12 か所から今年度末は 14</p>

	か所と広がり、神奈川県内全域を対応する拠点が出来た。
	ウ) この事業の課題と対応策 ・ ビーバーリンク拠点に登録団体が増えていくため、提供日の増加、提供品の確保が課題。対応として、提供日、提供品を増やすため、効率の良い配布方法を構築。

(注) 個別事業が2つ以上ある場合は、上の表を複写して記入してください。

2 協働事業を継続する上での課題とその対応策

- ・ コロナの影響が長引く中、必要とする人々へ支援団体を通じて、ビーバーリンクでの提供がさらに望まれる状況となった。感染症予防を徹底しつつ、子ども食堂・フードバンク団体への支援継続が重要であり、活動の制限がかかる状況下で、対面での情報交換や交流できる場が限られる状態のなか、各団体のニーズを聞き、活動に見合う支援体制づくりが課題となった。また、地域の居場所や支援拠点づくり等、つながりや心の支援をどう対応していくかが課題である。
- ・ 対応策としては、若者支援、ひとり親支援の現場では、支援団体と連携し課題の共有を行いながら、飲食を伴わない食品提供と、オンラインや、メールを使った交流等で幅を広げて対応した。食支援の活動が継続的に望まれる状況に対する対応策としては、提供企業と、支援現場となる団体や子ども食堂と、支援が必要な方々をつなぐこと、双方が理解することが重要であり、ビーバーリンクのネットワークを通じ、必要なものを必要な方へ届いている仕組みや、活用状況、地域課題への想いなどを中間支援団体として、今後も引き続き定期的に発信していく。
- ・ ビーバーリンクを継続するためには、企業など提供者が安心して提供できること、子ども食堂などが安心して利用できることが重要であり、社会的支援のための運営であることを伝えるだけでなく、子ども食堂などの取り組みが地域の居場所として継続していく必要がある。その対応として、常に各子ども食堂、支援団体の運営状況を確認し、必要に応じて支援や相談に応じる。寄付された食品の衛生管理や安全対策等、法人で定期的に確認できる仕組み作りや、子ども食堂など支援活動団体間の交流の場づくりも実施していく。

3 負担金事業終了後の当該協働事業の見通し

- ・ 神奈川県全域にビーバーリンク拠点が広がったことで、多機関で得意を活かして持続可能な支援体制が整えられた。
- ・ 各拠点での食品等の確保についても、協力企業との連携の継続、取組みに賛同する企業からの紹介等、成果が共有され社会的認知がすすんだことで、引き続きの確保が見込める。
- ・ 経費で大きく影響する物流費、保管費についても、拠点として利用しているパルスシステムの配送センターの冷凍庫・冷蔵庫の活用と車両借入れも継続できることから、物流費、保管費の負担が軽減できる。また、加瀬倉庫から社会的活動への支援として、常温品の一時保管の協力が得られることになり、常温品の保管場所の確保も出来た。
- ・ 地域フードバンク団体との連携がすすみ、情報のネットワークが構築できたことで、当法人だけでなく、エリアごとでの受け取り拠点としても有効に活用できるつながりが出来てきた。
- ・ 生活支援など専門で行う各支援団体との連携により、個別対応なども役割分担することで、取り残さない支援の構築につなげていく。
- ・ 「多機関連携ネットワーク」として、食品をはじめとし、人・もの・資金などの地域資源が循環できるシステム「ビーバーリンク」を県内のほか、近隣県とも連携し各地域のビーバーリンクの活動を拡充し、広報や運営ノウハウの充実、資金集め等を行い、事業継続を図る。地域にいる運営主体と協働し K-Model を各地に広めていく。
- ・ 基金 21 事業で培ったノウハウや連携団体との関係、実績を最大限に活かし、団体本体の事業の中で

K-Model を更に推進していく。